

資料 1

地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価（自己評価）

平成 25 年 4 月 23 日

関 東 運 輸 局 長 殿

千葉県長南町地域公共交通活性化協議会

平成 25 年度 地域公共交通確保維持改善事業に係る
事業評価の送付について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（平成 23 年 4 月 1 日国総計第 5 号、国鉄財第 4 号、国鉄業第 4 号、国自旅第 20 号、国海内第 8 号、国空環第 5 号）に基づき、平成 25 年度地域公共交通確保維持改善事業（陸上交通に係る確保維持事業）の事業評価を実施したので、事業評価票等を送付いたします。

<問い合わせ先>

（住所）千葉県長生郡長南町長南 2 1 1 0

（担当部署）長南町役場総務課政策室

（担当者） 相 澤 智 哉

（電話番号） 0475-46-3301

（FAX 番号） 0475-46-1214

（E-mail） seisaku@town.chonan.chiba.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

(別紙1)

平成25年4月23日

協議会・構成員 長南町地域公共交通活性化協議会

長南町

小湊鉄道株、株HMC東京、(有)長南タクシー

千葉県

事業名	補助対象 事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統)	事業者名; (有)長南タク 、 運行系統名; 町内全域	長南町全域でドア・ ツアー・ドア方式	●計画に位置付けられた事業は適 切に実施された。 ・地域一体となった取り組みを通じ て、利用促進が図られている。 ・(有)長南タクシーにおける10月から 半年間の利用回数は、2,288回、 2,518人の利用者数となっており、計 画年間3,690回に対し、既に62%の達 成率となっている。 ・利用状況を踏まえ、必要に応じ改 善を図り、来年度以降も継続してい く。	・(有)長南タクシーにおいては、目標 である一日平均利用回数15回に対 し、19.1回(利用者数は210人)の利 用状況となっている。 ・公共交通の空白地域の解消、定期 バスへのアクセス向上等により、路 線バスの維持が図られ、幹線への接 続出来る交通手段の確保ができた。	・利用の動向、利用者の利便性の向 上について今後引き続き利用実態 を注視し、継続していく。
	事業者名; ゆたか自動車 (株) 運行系統名; 町内全域	長南町全域でドア・ ツアー・ドア方式	●計画に位置付けられた事業は適 切に実施された。 ・ゆたか自動車における利用回数 は762回、利用者数は832人であり、 達成率は20.5%と低くなっている。 ・利用状況を踏まえ、必要に応じ改 善を図り、来年度以降も継続してい く。	・ゆたか自動車においては、目標 である一日平均利用回数15回に対 し、6.4回(利用者数は6.9人)の利用 状況となっている。 ・他社に比べ、利用者数が少なく、車 両所有台数や常連客等の過去から のタクシー利用実績が表れたと思わ れる。 ・公共交通の空白地域の解消、定期 バスへのアクセス向上等により、路 線バスの維持が図られ、幹線への接 続出来る交通手段の確保ができた。	・利用の動向、利用者の利便性の向 上について今後引き続き利用実態 を注視し、継続していく。

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

平成25年度 長南町地域公共交通活性化協議会（千葉県長南町）
（地域内ファイダーシステム確保維持事業）

概要

○地域の公共交通の現況

長南町では、町民の移動手段を確保するとともに、町民の福祉向上を目的として、平成16年度から巡回バスの運行を行っている。役場周辺を起点として、町内を4路線に分け、現行の路線バスと競合しないようにルートを設定し運行を行っている。

しかし、近年においては、利用者が減少傾向にあり、このままの状態が続くと、運行費の負担が大きくなっていく。その一方で高齢化の進行により、将来の移動手段を心配する声もある。また、公共交通事情が悪化することにより、人口の流失が更に進み、地域の衰退が加速する恐れがあることから、巡回バス運行の見直し等を含めた公共交通体系の再編が必要になっている。また、町内 西地区や東地区の一部では、高齢者等の移動が困難となっている交通空白地域が生じているところである。

○事業の目的・必要性

町内西地区や東地区の一部においては、交通空白地域のマイカーを自由に利用できない高齢者の移動手段の確保は大きな課題となっている。また、生活圏域の広域化等により町民の移動ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した公共交通ネットワークの構築が急務となっている。このような状況の中、町内全域において公共的な移動手段がない住民の足を確保するため、予約制乗合タクシーの運行を実施する。

○事業の概要

地域間交通を確保・維持する取組みとして、町内全域において地域間幹線系統に接続させる形で事前予約型・区域運行の乗合タクシーを平成24年10月から本格運行として実施している。

【乗合タクシー】

事業者名⑤有)長南タクシー・ゆたか自動車(株)

運行区域:長南町全域

運行日:月曜～金曜(祝日、年末年始運休)

運行時間帯:8時30分～16時00分

運行本数:予約方式

運行車両:各社1台ずつ

運賃:一人片道500円、ペア割一人片道300円

過疎法指定



面積

65.38 km²

人口 (H25.4.1時点)

8,990 人

15歳未満

726 人

65歳以上

3,030人

高齢化率

33.7 %

世帯数

3,210世帯

協議会開催状況・検討内容

○協議会の開催状況 1回開催

・第1回(6月15日)

ネットワーク計画を協議

定量的な目標・効果

(目標)・1日当たり利用者数を30人以上とする ・経常収支率を26.8%以上とする

(効果)・デマンド型乗合タクシーを維持することにより、公共交通空白地帯が解消され、自家用自動車等を利用できない高齢者などの移動手段が確保され、利便性が向上する。

また、路線バスと連携することにより、効率的な運行が実現でき、町民の外出促進による地域間交流の活性化や健康の増進にも大きな効果が期待できる。

目標・効果の達成状況

(有)長南タクシー： 結果(1日あたり 19.1回 利用者数 21.0人)

・公共交通の空白地域の解消、通院や買い物等の利用が多くされ、また、路線バスへの乗り継ぎにも利用され、幹線への接続できる交通手段の確保ができた。目標の利用者数は、半年間の実績では25%程度多く利用されている。

ゆたか自動車株： 結果(1日あたり 6.4回 利用者数 6.9人)

・公共交通の空白地域の解消、通院や買い物等の利用が多くされ、また、路線バスへの乗り継ぎにも利用され、幹線への接続できる交通手段の確保ができた。目標の利用者数に満たない状況であり、今後の6カ月間の利用者の増加を期待するもの。

今後の改善点

- ・利用内容の見直し、利便性の向上について、今後も引き続き利用実態を注視し、継続していく。
- ・区域内運行については、予約率等を踏まえ、利用者の意見も聞きながら、町域公共交通活性化協議会による検討を行っていくこととする。

アピールポイント

- ・前日までの予約としていたものを、当日予約(但し、利用の1時間前迄)を可能としたことにより、利用が増えた。
- ・ペア割制度を導入し、利用者には喜ばれている。

3. 巡回バス運行における問題点及び公共交通整備の方向性

地域現況及び巡回バスの利用実態を踏まえ、巡回バス運行における問題点及び公共交通整備の方向性を整理すると、以下のようなになる。

地域現況①（公共交通サービス実施の経緯）

年次	昭和57年	平成6年	平成16年
概要	【路線バス運行補助事業】 ・路線バス運行経費の赤字補填のために実施している。	【福祉タクシー事業】 ・町内に在住する身体障害者等が通院及び訪問などに当たり、タクシーを円滑かつ迅速に利用することにより、社会活動の範囲を広め、身体障害者の福祉の向上を図ることを目的とする。 ・利用資格者が制度を利用した場合、1回につき千円を限度として助成している。 ・福祉タクシー事業者に対し、利用1回につき利用資格者1回に当たり300円を協力費として交付している。	【巡回バス事業】 ・平成16年3月より、町民の移動手段を確保するとともに福祉向上を目的として実施している。 ・町役場を起点として、町内全域を4路線に分け、現行の路線バスと協力競合しないようにルートを設定し、マイクロバスを2台使用している。 ・便数は、午前3便、午後2便である。 ・運行日は、月～金の7時20分～17時30分である。 ・料金は100円で、停留所以外でも乗降可能である。

地域現況②（巡回バス以外の交通手段の実態）

【鉄道利用者】	【自動車保有状況】	【タクシー】
・町役場から最も近い茂原駅の利用者人口1人当たりの保有率は8割以上である。	・長南町内を通過する定期バスは、2社が運行しており、主な目的地は、茂原駅、牛久駅、鶴舞駅、大多喜駅となっている。	・町に営業所のある会社は2社で、保有台数の合計は9台である。

地域現況③（社会背景の変化）

キーワード	過疎化	少子高齢化	モータリゼーションからの脱却	日常生活への満足度
動向	・山村地域から都市へと人口が流出し、学校、商店などが閉鎖されたり、地元の伝統芸能の継承が困難になったりし、地域に活力が乏しくなる。	・高齢者が安心して、日常生活をできるようにするため、公共サービスの充実が必要とされている。	・高齢者が安心して、超高齢化社会への対応からクルマ社会からの脱却を図る動きが出ている。	・近年において、サマータム制度の導入が検討され、国民の生活志向が仕事中心型から生活重視型へ移行している状況にある。
長南町の実態	・千葉県全体では、依然として人口は増加傾向であるが、長南町では減少傾向にあり、隣接市町村に比べると、その量が多い。 ・町の商店数及び年間の卸売販売額は減少傾向にある。	・65歳以上の高齢者が全体の30%以上を占めていて、町中心部（役場）から遠くなると、高齢者の割合が高い。	・長南町第4次総合計画では、公共交通機関の整備の中で巡回バスの見直しが挙げられている。 ・長南町在住の就業者の約6割、通学者では約8割が町外へ通勤通学している。	・アンケート調査では、長南町は「住みにくい」という回答が約3割を占め、その理由のひとつとして、「交通の便が悪いかから」が挙げられている。

巡回バスの利用実態

【利用者の動向】
・平成20年の13,119人をピークに、平成22年は9,527人と減少している。 ・大人の殆どが高齢者で、主に病院や町役場への交通手段として利用している。 ・利用者の4割は子どもで、主に西小学校の児童が西地区コースを通学で利用している。午前と午後を比較すると午前の方が多い。 ・東コースと西コースは午前中の利用者が多い。一方、坂本・豊栄コースと長南・蔵持コースは一日を通じて利用者が少ない。 ・利用者の満足度では、路線バスの乗り継ぎについては約54%満足と他の設問よりは低い結果となっている。

巡回バス運行における問題点

- 巡回バスのコース上に、町民の福祉向上といった運行目的に合致した施設がない。
- 発着の起終点である長南営業所には、町役場がない。鉄道駅、病院、商業施設は、主に茂原市方面に移動しなければならない。
- 運行目的の対象となる人口が少ないため、利用者数も少ない。
- 巡回バスの運行目的の対象となる人口（平成23年4月1日）人口9,389人のうち、15～19歳が402人、65～79歳が1,853人、80～89歳が911人
- 利用者数の実態（平成22年）年間9,527人、そのうち児童が2,494人（全体の26%）
- 時間差及びコースにより、利用者数に偏りがある。
- 東コースと西コースは午前中の利用者が多い。一方、坂本・豊栄コースと長南・蔵持コースは一日を通じて利用者数が少ない。

公共交通整備の方向性

- 時間帯及びコース別の利用需要に見合った適正なサービスの提供が必要である。（巡回バス本数の適性化・新たな公共交通手段の導入）
- 移動時の利便性を向上するため、巡回バスと路線バスの連携を強化する必要がある。（巡回バスのダイヤ改正）
- まちの活性化に寄与できるようにするため、新たなサービスの提供が必要である。（地元商店街との協力、圏央道高速バスとの連携、広域拠点間の移動手段確保）

4. 地域公共交通総合連携計画の区域

計画の区域は、長南町全域とする。

◆巡回バスの状況



◆路線バスの状況

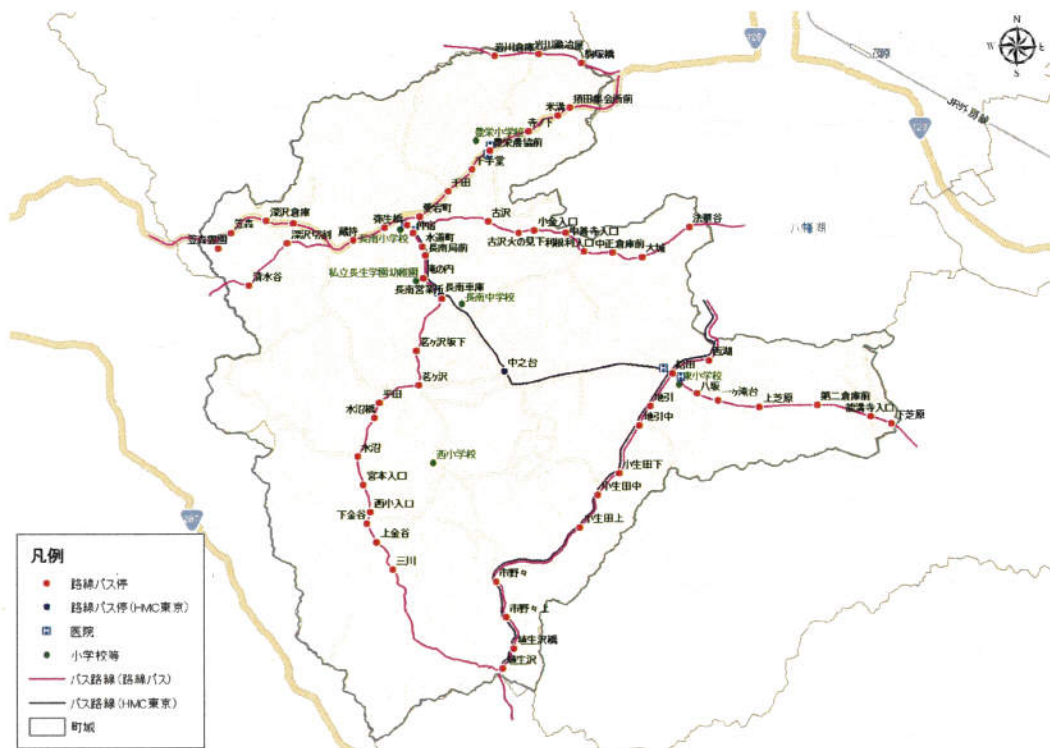


図 4-1 地域公共交通総合連携計画の区域図

